模型の作製について

模型には、

1）スタディ（習作）用の模型

2）プレゼンテーション用の模型

の 2 種がある。デザインを繰り返し検討するためには 1）の模型を、クライアントに最終的な完成イメージを伝えるためには 2）を用意する。この実習では 1）のタイプの模型を複数作製してデザインの検討を行う。最終発表会のためには、2）のタイプの模型を作製する。ただし、完成した空間のイメージが伝わる程度のリアルさを追求すればよく、模型材料にお金をかけ過ぎる必要はない。

主な模型の材料には、スチレンペーパー（白色の発泡プラスチックシート）やモデルボード（スチレンペーパーの表面に白紙が貼ってあるもの）、和紙やケント紙、プラスチック材、バルサ材、ワイヤー、コルクシート等があり、画材店で手に入れることができる。この他に、爪楊枝や竹串、不要になった段ボール、コード線、発泡スチロール等も模型材料として利用できる。

参考

スチレンペーパー（1㎜厚、640×940㎜）	140 円
スチレンペーパー（2㎜厚、640×940㎜）	280 円
スチレンペーパー（3㎜厚、805×1110㎜）	350 円
スチレンボード（5㎜厚、760×1080㎜）	1070 円
モデルボード（1㎜厚、805×1110㎜）	700 円
モデルボード（2㎜厚、805×1110㎜）	780 円
モデルボード（3㎜厚、805×1110㎜）	860 円
モデルボード（5㎜厚、800×1100㎜）	1020 円
スチのり 50	368 円

<u>スタディ模型</u>

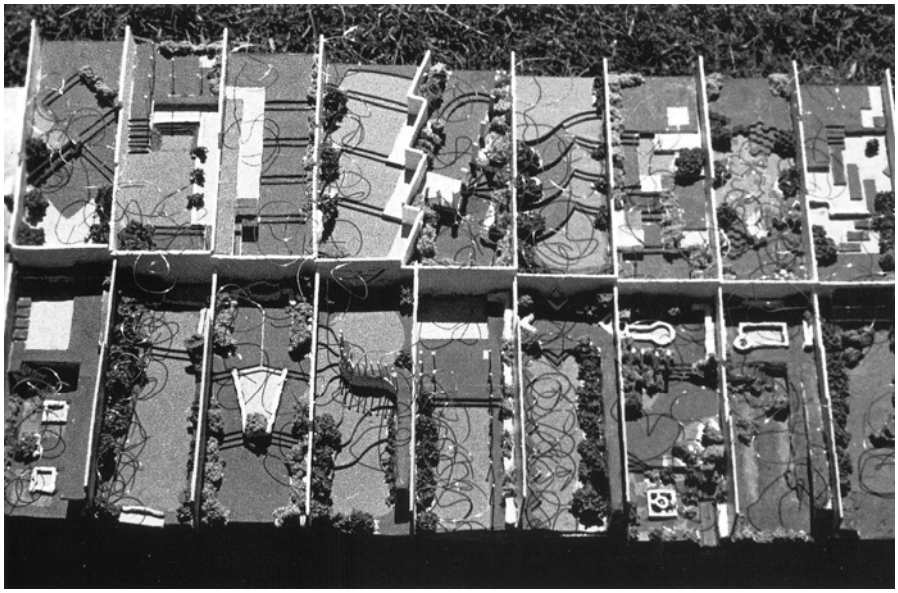
空間の検討を行うために作製する。細部まで作り込む必要はないが、スタディしたいものは最低限作られている必要がある。また、敷地の一部分の模型であってもよい。しかし、縮尺はしっかりとあわせておく必要がある。スタディするときは、模型をさまざまな角度から眺める。人のフィギュアをおいて、その視点からの眺めをスタディするとよい。

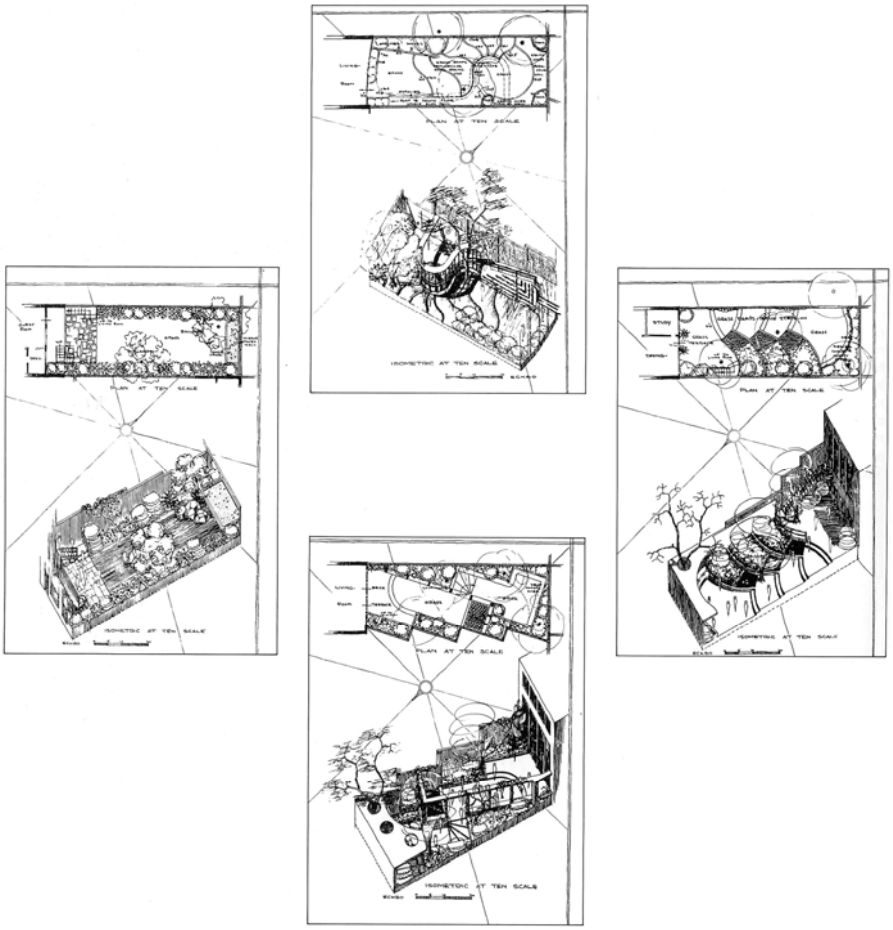
<u>プレゼンテーション模型</u>

完成イメージを伝えるものである。専門家が見るものではないので、できるだけリアルな方がわかりやすい。高度な技術を要するので、模型作製を職業とする人もいる。

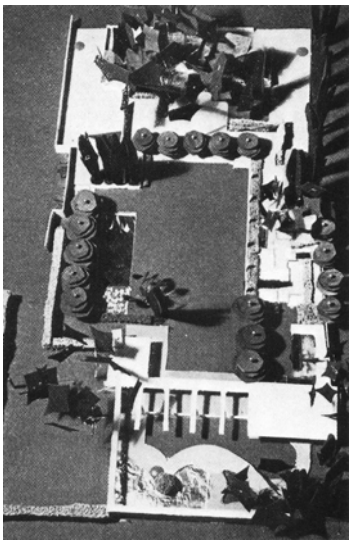
1.　Garrett Eckbo による都市の小庭園のスタディ模型[1)、2)]

7.6m 幅の小さな庭園の多様なデザインの可能性について検討した例。模型の作製と並行して、平面図やアクソメの修正を繰り返し、18 のデザインを創り上げたのであろう。



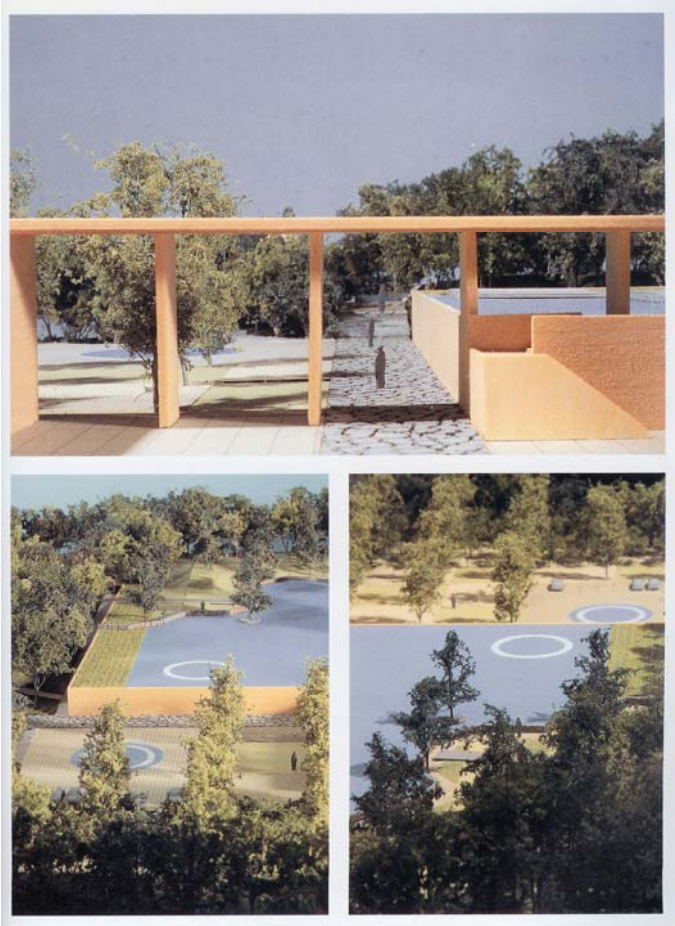


2.　James Rose による Garden Project の模型[3)]



いくつかのタイプの植生が表現されている。
特に樹冠のボリュームに注意を払われた模型である。

3.　Peter Walker による豊田市美術館のプレゼンテーション模型[4)]



地面のテクスチャなどもリアルに再現されている。

引用文献

1) Eckbo, G. (1993) Pilgrim’s progress. In: Modern landscape architecture: a critical review (ed. Treib, M.). MIT Press, p.206.

2) 都田徹・中瀬勲 (1990) ガレット・エクボ：ランドスケープの思想. PROCESS:Architecture, 90: p.146.

3) Treib, M. (1993) Axioms for a modern landscape architecture. In: Modern landscape architecture: a critical review (ed. Treib, M.). MIT Press, p.42.

4) 佐々木葉二 (1990) ピーター・ウォーカー・ウィリアム・ジョンソン＆パートナーズ：アートと自然の調和. PROCESS:Architecture, 118: p.113.